最新改訂：2014年 9月24日
印　　刷：2014年 6月30日

1. 製品及び会社情報

製 品 名 ： ＬＰＳ２　強力浸透多目的潤滑剤　エアゾール

会 社 名 ： 株式会社 ITW パフォーマンスポリマーズ＆フルイズ ジャパン
住　所 ： 大阪府吹田市江の木町30-32
担当部門： 品質管理部
電　話 ： 06-6330-7118(代)
F A X ： 06-6330-7083

2.危険有害性の要約

[GHS分類]

可燃性／引火性エアゾール	：区分１
急性毒性　経口	：区分外
経皮	：分類できない
吸入（気体）	：区分外
吸入（蒸気）	：区分外
吸入（粉塵及びミスト）	：区分外
皮膚刺激性／腐食性	：区分２
眼損傷性／刺激性	：区分２Ａ
呼吸器感作性	：分類できない
皮膚感作性	：分類できない
生殖細胞変異原性	：分類できない
発がん性	：区分外
生殖毒性	：分類できない
授乳に関する影響	：分類できない
標的臓器／全身毒性（単回曝露）	：区分３（麻酔作用）
標的臓器／全身毒性（反復曝露）	：分類できない
吸引性呼吸器有害性	：分類できない
水生環境有害性（急性）	：区分外
水生環境有害性（慢性）	：区分外

[GHSラベル要素]

絵表示又はシンボル	：炎、感嘆符
注意喚起語	：危険

[危険有害性情報]

・極めて引火性の高い可燃性／引火性のエアゾール
・可燃性液体
・皮膚刺激
・強い目刺激
・眠気やめまいのおそれ

[注意書き]

加圧容器：使用後、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
使用時以外は容器を密閉しておくこと。
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
火花を発生しない工具を使用すること。
耐熱手袋／保護眼鏡／保護面／保護衣を着用すること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器等を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
指定された個人用保護具を使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。

[対応]

火災の場合には、消火に「5.火災時の措置」にある適切な消火剤を使用すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。
皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
曝露または曝露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
曝露した場合：医師に連絡すること。
漏出物を回収すること。
内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って適切に廃棄すること。
日光から遮断し、50℃を超える温度に曝露しないこと。
涼しい所／換気の良い場所で保管すること。

3. 組成/成分情報

単一製品・混合物の区別 ： 混合物
化学名又は一般名 ： 石油系潤滑剤

化学品名	別名	含有量(%)※	CAS No.	官報公示整理番号	PRTR法
脱アロマケロシン		50-70	64742-47-8	ー	ー
ミネラルシールオイル	鉱油	10-30	64742-52-5	ー	ー

※法規制のあるものについて記載

4. 応急処置

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移す。呼吸が停止している場合は直ちに酸素吸入を行う。心肺停止の場合は直ちに心肺蘇生措置を行う。呼吸が困難な場合は直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合： 汚染された靴、衣類を取り除く。皮膚を水と石鹸で完全に洗い落とす。軟膏などは使用せず、刺激が生じた場合は医師の診断を受ける。

目に入った場合： コンタクトレンズをしていて容易に外せる場合は外す。直ちにゆるやかな冷たい流水で15分以上洗浄する。洗浄の際はすみずみまで水が行き渡るようにまぶたを押し上げて洗う。軟膏などは使用せず、直ちに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合： 医療従事者の指示が無い限り無理に嘔吐を誘発させない。被災者に意識が無い場合は決して口から何も与えてはならない。自発的に嘔吐を催した場合は被災者の頭を膝より低く保って座らせる。被災者が眠気を催しているか、意識が無い場合は顔を横向けにして寝かせる。付添いの無いまま被災者を放置しない。直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤: 小規模火災;ドライケミカル
大規模火災;二酸化炭素、霧状上の水、泡消火器。容器冷却には爆発を防ぐため注水する。

使ってはならない消火剤: 特になし

防護設備: 皮膚や目に触れないように防護服を着用する。燃焼により危険性のある物質が生成／分解により発生する可能性があるので、自呼吸式の防護服を着用する。

消火方法: 防護服を着用していない人を直ちに火災エリアから避難させる。全ての作業は風上から行うようにする。危険でなければ容器を火災区域から移動する。大量の水を用いて充分に容器を冷却する。防護服無しで消火活動エリアに入らないこと。小規模の火災の場合は、粉末消化剤、二酸化炭素を使用する。大規模の火災の場合は散水、水噴霧又は泡消火剤を用いる。

その他: 加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 漏出したエリアを換気する。防護服を付けていない人、除去作業に必要の無い人を、漏出エリアから避難させる。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないようにする。

緊急時措置： 危険でなければ漏れを止める。
蒸発を抑え、蒸気の拡散を防ぐために散水を行うが、漏洩物又は漏洩源に直接水をかけない。
漏洩場所を換気する。

環境に対する注意事項： 排水溝、下水道、地階あるいは閉鎖場所などへの流入を避ける。

封じ込め及び浄化の方法・機材： 少量の場合；着火源を取り除く。不活性な材料に吸収させて適切に廃棄する。
大量の場合；着火源を取り除く。漏出区域に人が入れないようにする。漏出物を囲って一か所に集める。吸収性のあるパッド、砂又は不活性な材料を使って容器に回収し、適切に廃棄する。除去した後、漏出したエリアを石鹸と水で洗い流し、残渣を除去する。

セクション8にリストされた適切な保護具を使用する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

[取扱い]

技術的対策： 眼や皮膚に直接付けないようにする。必要に応じて飛沫よけシールド付きゴーグル、保護手袋、前掛け等を着用する。
また、作業着、手袋等に付着したまま着用しない。

局所排気・全体換気： 充分な換気装置を設置する。閉鎖的な空間では私用しない。

注意事項： 取扱い後はうがいと行い、顔、手を充分に洗う。
作業中に汚染されたウエス、保護手袋は廃棄し、作業者への接触のないようにする。

安全取扱注意事項： 容器の再利用はしない。
空になった容器にガスが残っている可能性があるので、再利用、過熱・焼却・加圧・切断・溶接・鑞づけ・はんだづけ・穴あけ・研磨等の作業や、炎・火花・着火源への曝露は行わないこと。

[保管]

技術的対策： 火気厳禁を励行する。

適切な保管条件： 着火源となる熱源、可燃性物質、直射日光や共存できない物質などを避けて、容器の蓋を閉め、涼しいところ／換気のよい場所で保管すること。施錠して保管すること。4.4℃以上49℃以下の範囲を超える温度に暴露しないこと。

安全な容器包装材料： 現行容器にて保管

8. 曝露防止及び保護措置

設備対策： 囲い、局所排気装置やその他空気曝露レベルを限界以下に保つための適切な管理設備を使用する。曝露レベルを管理するに充分な排気装置を設置する。
洗眼、手洗いの設備を設ける。

保護具： 安全眼鏡又は飛沫避け付きのゴーグル（手の届く範囲に洗眼用カップを用意する）、有機溶剤に耐性のある保護手袋、ガス／蒸気フィルター付きのマスク又は有機溶剤用マスク。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

外観：エアゾール **色**：褐色透明 **臭い**：チェリー

比重：0.82-0.86（@20℃）

融点：<-50℃ **沸点**：213℃

蒸気圧（mmHg）：<0.05（@20℃） **蒸気密度（空気 =1）**：4.7

引火点：79℃（TCC） **pH（5%溶液或いは水中のスラリー）**：N/A

燃焼又は爆発範囲の上限／下限：7.0%/0.6% **発火点**：>228℃

溶解性：3%可溶 **分解温度**：N/A

ｵｸﾀﾉｰﾙ／水分配係数：<1

10. 安定性及び反応性

安定性：通常の温度、圧力であれば安定

危険有害反応可能性：無し。危険な重合は起こらない。

避けるべき環境：高温、火花、直火、熱等の着火源。

混触危険物質：酸化剤。

危険有害な分解生成物：燃焼により分厚い又はむせるような、或いは眼に見えないような煙を発生する場合がある。生成した煙は一酸化炭素や二酸化炭素を含んでいる。

11. 有害性情報

急性毒性	**経口**	：区分外（経口毒性は低いが、大量に飲み込むと吐き気、嘔吐を催したり胃腸部に刺激を与える。）
	経皮	：分類できない（繰り返し皮膚に触れると乾燥やひび割れを引き起こす可能性がある）
	吸入（気体）	：区分外
	吸入（蒸気）	：区分外（大量に吸入すると呼吸器官を刺激したり、吐き気、眩暈や頭痛を引き起こす可能性がある）
	吸入（粉じん、ミスト）	：区分外
皮膚腐蝕性／刺激性		：区分外（直に触れると刺激及び発赤を引き起こす場合がある）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		：区分外（刺激する。）
生殖毒性		：分類できない
標的臓器／全身毒性（単回曝露）		：区分外
標的臓器／全身毒性（反復曝露）		：分類できない

12. 環境影響情報

水生環境有害性（急性） ：区分2

水生環境有害性（慢性） ：区分2

13. 廃棄上の注意

空容器は、容器内のガスを全て噴射し、抜き取ってから、国際／国／都道府県知事／市町村の規則に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 陸上（RID/ADR）： 法令の基準に従い積載、運送を行う。

海上（IMDGｺｰﾄﾞ）： 法令の基準に従い積載、運送を行う。

航空（ICAO-TI/IATA-DGR）： 法令の基準に従い積載、運送を行う。

国連分類：2

国連番号：1950

15. 適用法令

消防法 ：危険物第四類第三石油類

労安法 有機則 ：第三種有機溶剤（脱アロマケロシン）

通知物質 ：法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表 9
（551 ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ、168 鉱油）

16. その他

参考文献 ：法規制物質リスト（日本ケミカルデータベース）
：ケミカルデータベース（日本ケミカルデータベース）

本製品に関する有害性等の文献はありません。従って、その評価は原料メーカーからの資料を基に安全に取り扱う為の留意点としてまとめたものであり、データーは充分ではありませんので、取扱には充分ご注意をお願い致します。